

多様化するがん治療を 支える腫瘍循環器

企画：上原雅恵

(がん研究会有明病院
腫瘍循環器・循環器内科)



HEART's Selection

がん専門病院の循環器診療では、日々様々な科から、血栓症、高血圧、心機能低下、心不全、不整脈と、あらゆる循環器事象に関する相談を受け、既存のガイドラインに準じて通常の検査や治療を行っている。しかしながら、がん治療を行っている各科からのコンサルトを受けた際、治療を行っているがんの種類、行われている治療、背景疾患などに注目をする、がん診療に伴って生じた心血管イベントであることや、がん自体との関連性に気づかされることが多い。腫瘍循環器の診療では、まずがんの種類やそのステージ、現在使用している抗がん薬の種類、これまでの投薬歴や手術歴、放射線治療歴の有無、併存する疾患(生活習慣病を含む)などに関する情報収集が重要となる。心血管イベント発症後も、がん治療を継続していくためには、心血管イベントに対する最適な治療を選択する必要がある。そのためにも、患者さんのがん治療に関する情報収集が不可欠となる。がんの種類やその治療によって、発症しやすい心血管イベントに特徴があるため、がん治療に関する知識も必要とされるが、残念ながら、循環器内科・外科診療では、がん治療に従事することはほとんどないため、がん治療に関する知識に乏しい。多くの循環器医において、抗がん薬の名前に馴染みがなく、起こり得る心血管事象について頭に思い浮かべることが難しいと思われる。近年、益々様々な抗がん薬が使用されるようになり、心血管への副作用の発現も多岐にわたっており、常に薬剤に関するアップデートを行う努力が必要となる。がん患者さんが、最善のがん治療を受け、生命予後を延ばすために循環器医が果たす役割は多く、今後、腫瘍循環器の分野におけるさらなる研究の発展、マネージメントに関する統一した見解、エビデンスの蓄積が求められている。

今回は、腫瘍循環器の分野で数多くの経験を有している先生方に、各診療科における心血管イベントの特徴や注意すべき薬剤など、日々の診療において役立つ情報をまとめていただいた。本稿を通して、腫瘍循環器の診療に関し、一層多くの先生方に興味を持っていただけると幸いである。